

1 全野協320-41 「反則投球に関する規則改正について」

(21) 定義 38 の【注】を削除する。

38 ILLEGAL PITCH 「イリーガルピッチ」(反則投球) — (1) 投手が、投手板に触れないで投げた打者への投球、(2) クリックリターンピッチ、をいう。

— 走者が塁にいるとき反則投球すれば、ボークになる。

【注】投手が5.07(a)(1)および(2)に規定された投球動作に違反して投球した場合にも、反則投球となる。

解釈の根拠

5.07 投手 (a) 正規の投球姿勢

投球姿勢にはワインドアップポジションと、セットポジションとの二つの正規のものがあり、どちらでも随時用いることができる。

打者への投球に関連する動作を起したならば、途中で止めたり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

【注2】(1)(2)項でいう“途中でとめたり、変更したり”とはワインドアップポジションおよびセットポジションにおいて、投手が投球動作中に、故意に一時停止したり、投球動作をスムーズに行わずに、ことさらに段階をつけるモーションをしたり、手足をぶらぶらさせて投球することである。

① 反則投球に関する規則改正について 走者がいる場合の取り扱い 事項

事項	全軟連	BFJ	NPB
自由な足を一時停止して投球、塁に送球	ボーク	ボーク	ボーク
自由な足を上げ下げして投球	ボーク	ボーク	ボークとはしない
自由な足を上げ下げして塁に送球	ボーク	ボーク	ボーク
グラブを叩いて投球	指導	ボーク	ボークとはしない

※グラブを叩いての投球は、2018年度は徹底指導事項とし、2019年度からBFJと同様にす
る。

② 走者がいない場合の取り扱い

5.07(a)(1)および(2)に違反した投球動作は定義38に規定する反則投球ではなくなり、走者がいない場合にはペナルティを課さないことになる。ただし、自由な足を2度、3度と上下させた場合は、自然な投球動作ではないので、注意してやめさせる。

2 全野協320-42

「ベンチ前のキャッチボールの禁止および“ミットを動かすな”運動の展開について」

全日本軟式野球連盟においては、球場設備等の関係で「ベンチ前のキャッチボールの禁止 (5.10(k))」を採用しないこととするが、アマチュア野球規則委員会の決定に従い「2020年までに完全実施できるよう」指導していくこととする。

3 全野協320-43 「没収試合の防止に向けて」

競技者必携2018 規則適用上の解釈 (38) 参照

4. 申告故意四球について

(6) 5.05 (b) (1) 【原注】、9.14、
定義7

打者が打撃中にボール4個を得るか、守備側チーム監督が打者を故意四球とする意思を審判員に示し、一塁へ進むことが許される裁定である。守備側チームの監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合（この場合はボールデッドである）、打者には、ボール4個を得たときと同じように、一塁（が与えられる。）へ進むことが許される。

代理監督の申告でもよい。（大分県軟連）

※申告故意四球の確認事項

- ①従来通り、投手が敬遠するために実際に投球して四球にすることも可能。
- ②打撃中の投球カウント途中においても守備側の監督が申告することが可能
- ③守備側の監督から申告されれば、球審はボールデッドとして打者に一塁を与える。
- ④申告による四球は実際に投球されていない場合、その投手の投球数としてカウントはしない。
- ⑤攻撃側チームが代打を告げた場合、先に代打の手続きを行ってから敬遠のリクエストを受ける。
- ⑥投手が交代した最初の打者が申告による敬遠で一塁に進んだ場合、投手は1人の打者と対戦したとみなされ、交代することができるようになる。
- ⑦リクエストにより敬遠を行った場合、その時点でアピール権が消滅する。
- ⑧申告故意四球の例

「例」最終回の裏0-0の同点。攻撃側は1アウト走者三塁、3番打者Cのケース

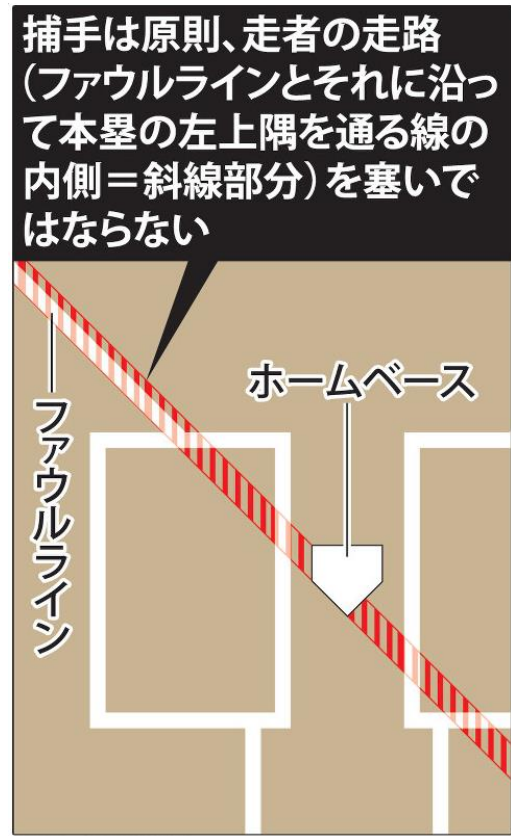
- ①守備側の監督がタイムを要求
- ②審判員はタイムのジェスチャー
- ③守備側チーム監督が、審判員に故意四球の意思を伝えた
- ④球審は打者に一塁へ進塁の指示を行う
- ⑤打者走者が一塁に到達し、4番打者Dが打席に入り球審は「プレイ」を宣告
- ⑥打者Dのボールカウント2b-0s時に、守備側の監督はタイムを要求
- ⑦守備側チーム監督が、審判員に故意四球の意思を伝えた
- ⑧以下省略

大分県軟式野球連盟からの確認事項

- ・ サングラス(反射するものも含む)使用可。ただし、正規に目にかけること。帽子などに置くことはできない。
- ・ 試合開始及びイニング攻撃開始時の先頭打者の待機位置…「ワンモアピッチ」のコールがかかるま

では、ネクストバッターサークルで待つ。

- ・ 3人制新フォーメーションを県内で確実に実施するが、学童の場合は原則ダイヤモンド内には入らない。
- ・ 開会式をする場合は、背の低い純に整列すること。
- ・ 本塁付近のクロスプレーにおける走路の確認
送球がそれて走者にタッグに行く際は走路に入る場
はやむを得ない。
捕手の足は、必ずはじめの段階では走路外に置かれ
ようにする。



合
る

- ・ 塁に走者がいるときに、投手が投手版に軸足を平行に触れ、なおかつ自由な足を投手板の前方に置いた場合には、この投手はセットポジションで投球するものとみなされる。

以下は口頭確認です

投球は、“ポジション”をとってから行う。

セットポジションのケース

セットポジションをするには、自由な足を決めて軸足を置くことを学童の時期から指導すべき
セットポジションをとったら、自由な足または頭しか動かすことはできない。

ワインドアップポジションのケース

規定の足の位置が決まったら、完成。この状態から、自由な足を引く、上体を起こすなどの動作
を起こしたら、中断することはできない。